プレスリリース

学校林の現況調査結果について

平成１９年４月６日

（社）国土緑化推進機構

当機構において、平成１８年に全国の学校林の現況調査を行いました。今般、その調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

１ 調査の目的

（社）国土緑化推進機構では、昭和 25 年以来学校林活動の推進を図っており、ほぼ５年ごとに学校林現況調査を行ってきました。今回の調査では、これまでの調査との継続性を重視しつつ、学校林での木材利用や、地域社会との連携、学校林活動への支援状況などについての調査項目を充実させました。

青少年に対する森林環境教育の拡充が求められている中で、学校林の一層の活用を図ることが課題となっており、本調査はそのための基礎データを提供するものです。

２ 調査の結果

(1) 学校林保有校数等（全国の小中高等学校）

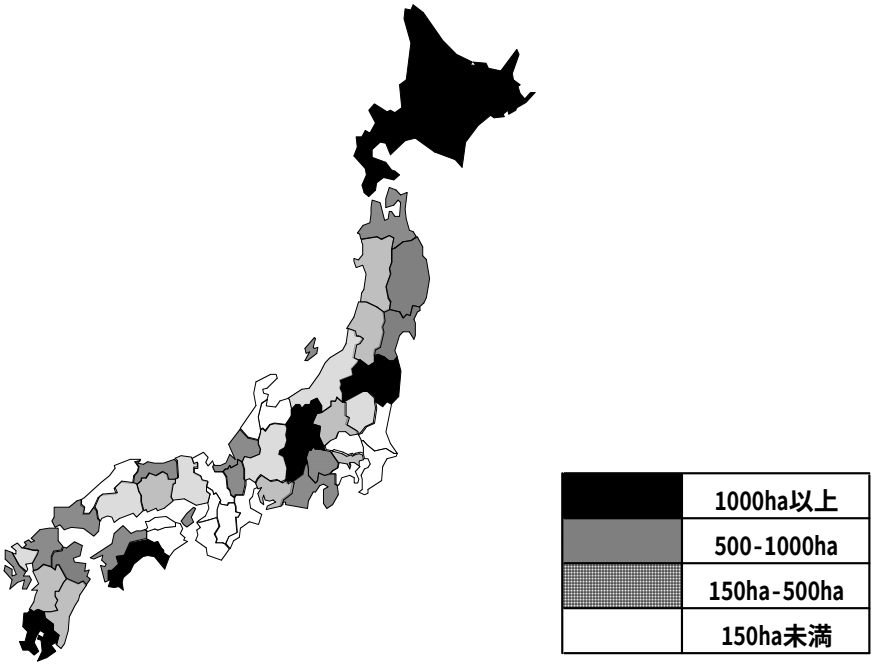
学校林を保有する学校は、全国の小中高等学校の 7.8%です。また、前回の調査に比較して保有校は 92%、面積は 96%と減少しています。

一方で、森林環境教育への期待の高まりから、埼玉県、千葉県、東京都、大阪府といった都市部の都府県を中心に、13 都府県で学校林保有校の増加が見られました。

	学校林保有学校数	学校林面積 ha
平成18年度調査結果(A)	3,057	20,106
平成13年度調査結果(B)	3,312	21,030
(A)/(B)	92%	96%

(2) 地域性

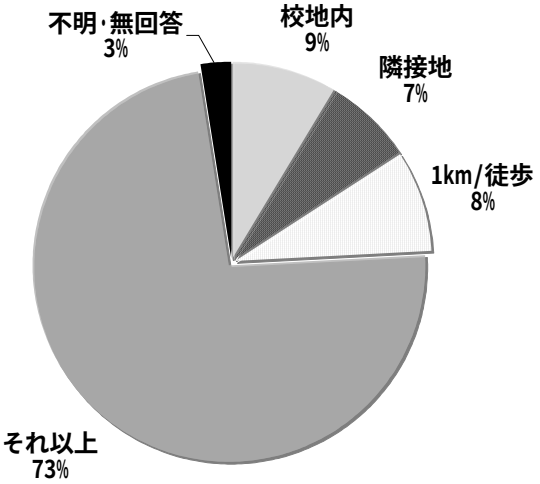
学校林所在の地域性を見ると、北海道・東北、東海、九州の各地方に多くなっています。また、首都圏・近畿地方の各都府県、北海道、宮城県、福岡県などの大都市を抱える都道府県の学校林面積は小さくなっています。



都道府県別学校林面積

(3) 距離

学校林の利用に大きく影響する学校と学校林所在地と間の距離ですが、1㎞以上（徒歩 20 分以上）の遠隔地の学校林が 73%となっています。今後、これらの学校林の利用を促進するため、交通手段の確保といった支援が求められています。

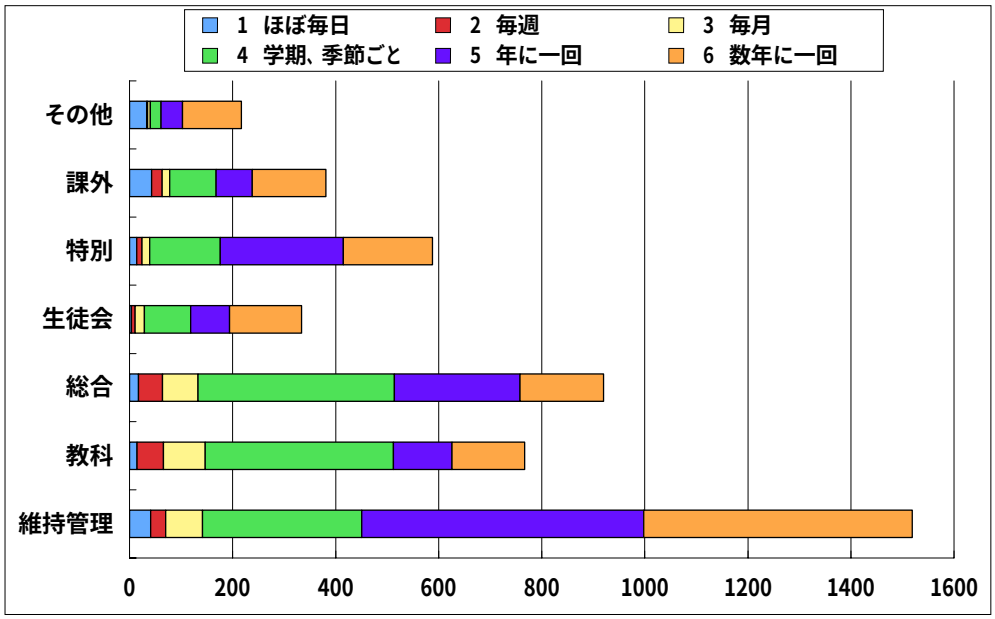


距離別学校林の割合

(4) 利用状況

利用の内容と頻度ですが、一番多かったのが、維持・管理作業で、これには木材利用としての伐採、林業教育としての間伐や枝打ちなども含みます。学校現場での体験学習への期待の高まりを反映して、総合的な学習の時間での利用実績が前回調査から

大幅に増加しました。また、活動内容を細かく見ると、環境教育や教科教育と関連が深い活動の実施数が前回調査より増加していました。



利用内容と頻度

維持管理：学校の基本財産に資するための伐採、また維持管理作業
教科：教科教育での利用
総合：総合的な学習の時間での利用
生徒会：児童会、生徒会、また委員会活動での利用
特別：緑の少年団活動や全校行事での利用
課外：部活動、同好会活動での利用
その他

活動の種類と前回調査からの増減

順位	活動種類	実施数	増減	増減率	順位	活動種類	実施数	増減	増減率
1	下草刈枝打ち	1144	+163	14.2%	22	絵を描く	77	+21	27.3%
2	植物観察	859	+163	19.0%	23	山菜茸採り	71	-9	-12.7%
3	植林･植樹	484	+107	22.1%	24	腐葉土作り	70	-10	-14.3%
4	森林の機能	468	+85	18.2%	25	地域調査	65	-8	-12.3%
5	動物観察	303	+92	30.4%	26	ビオトープ	61	+41	67.2%
6	清掃	298	+78	26.2%	27	基地	52	-13	-25.0%
7	植物採集	290	+55	19.0%	28	オリエンテーリング	45	-9	-20.0%
8	森林教室	280	+75	26.8%	29	僕の木私の木	42	+1	2.4%
9	散策	248	+47	19.0%	30	登山	38	+2	5.3%
10	植物調査	186	-1	-0.5%	31	体育	36	+3	8.3%
11	椎茸栽培	179	-17	-9.5%	32	動物調査	33	-8	-24.2%
12	巣箱	147	+35	23.8%	33	マラソン	32	-4	-12.5%
13	その他	129	-8	-6.2%	34	その他栽培	29	+3	10.3%
14	工作	122	+49	40.2%	35	キャンプ	28	+5	17.9%
15	名札	122	+41	33.6%	36	料理	24	-11	-45.8%
16	探検	120	-5	-4.2%	37	読書	14	+6	42.9%
17	森で働く人	114	+38	33.3%	38	詩を作る	10	+1	10.0%
18	ゲーム	84	+9	10.7%	39	音楽	8	0	0.0%
19	動物採集	84	+26	31.0%	40	山小屋作り	7	-5	-71.4%
20	炭焼き	81	+6	7.4%	41	養蚕	1	-1	-100.0%
21	測樹	81	-36	-44.4%	42	陶器	1	0	0.0%

３ まとめ

学校林の利用内容を見ると、これまでの「基本財産としての運用」「学校建築資材としての利用」から、「森林環境教育の場」「体験学習の場」へと内容が変化してきました。

学校林保有校数は、いわゆる伝統型の学校林を中心に減少しましたが、一方で総合的な学習の時間の導入により、学校教育における体験学習への期待の高まりを受けて、利用内容の多様化も見られます。学校林保有校のうち何らかの利用が行われた学校林の割合も、前回調査よりも増加しております（32%（平 18）←26%（平 13））。

学校林の活動においては、地域社会と連携した取組が重要であり、地域のシンボルとして学校林を育てたいという意見も見られました。地域の声、体験学習の場としての期待に応えるためにも、新たな学校林設置の促進、既存学校林の整備、活動マニュアルの作成や研修の実施等の支援が必要となっています。

（社）国土緑化推進機構といたしましては、関係行政機関や学校等と連携を取りながら、学校林の整備・活用に努めて参りたいと考えております。

102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-5
（社）国土緑化推進機構
TEL　０３－３２６２－８４５７
担当：茂田、堀口